

大豊町
幼児交通
安全クラブ結成

会長には入野圭一氏

ダム放流のお知らせ

力から

四國電力穴内川ダムおよび繁藤ダムではダム管理につきまして、日頃より設備の点検整備等を行い洪水にそなえております。警報サイレンまたはマイク放送を聞いた時は特に気をつけて下さい。

一、ダムより初めて放流しようとする時は、約一時し、約三十分前にサイレンを吹き鳴らして警報いたし、約三十分前にサイレンを吹きます。更に徹底をはかるために警報車でお知らせに廻ります。

二、ダム放流量が増え、毎秒一八〇立方メートルになった時は、再度各関係機関に通知を行います。更に徹底をはかるために警報車でお知らせに廻ります。

三、サイレンの吹鳴方法は、一分間吹鳴——（十五秒休み）——一分間吹鳴で実施いたします。

〔各関係機関の通知先〕

土佐山田町役場（消防本部）、同繁藤支所、土佐山



公衆衛生に功勞

大田口診療所長高井適先生が公衆衛生事業の功
労者として、第八回全国保健衛生大会（5月30日
新潟市）の席上田中厚生大臣から表彰されました

先生は昭和二十一年戦後の混乱期に、篠木に内科医を開設して以来、へき地の無医地区診療に寄与せられ、長岡郡医師会理事、大豊町

また、現在本山保健所管内結核審査会審査長、保健所運営委員会委員長、土佐

院勤務、二十一年五月、後木で内科医開業、二十七年五月、船戸大田口診療所長、四十二年六月、天坪診療所長を兼務して現在に至っております。

昭和二十一年、高知県立中央保健所長に、二十六年

ツ、アメリカなどの医学書四、五冊、内科総合臨床、臨床科学、癌の臨床、臨床病理、臨床生化学など日本医学書も十冊をこえております。

こうした先生の『田舎武士』な逸話は広く町民に

←祝賀会で挨拶する高井先生

高井先生に

厚生大臣賞

成人病検診、橋下防、献血推進、学校保健の管理指導等公衆衛生事業に貢献せられた功績が認められたもの。されておられます。

献血推進委員長、国保連には国立池療養所長にそれ就任するようのぞまれたが、敢然としてこれを断わり、地域の風土習慣「腺熱」の自費研究に取り

集団検診をする高井先生
(立川仁尾ヶ内にて)

先生は昭和十三年東大医学部卒、十六年四月と二十一年六月応召、善通寺陸軍病り、毎月イギリス、ドイツ

（上の写真は交差
願いをこめてひたす
の行方を追う 無垢
み、母のまなざしに
る微笑。この心温ま
を冷たい輪禍で喪眼
にしないように……）

栗生校跡にも記念碑

町内四番目の建立

邑（む）に不学の人なからなく、家に不学の人なからしめん、と、明治五年大政官布告によつて学訓が發布され、新しい時代の扉が開かれて百年余り、これを記念して庵倉、寺内、西峰など母校またはその跡地に次々と記念碑が建てられてきたが、このほど四番目の記念碑が衆生の跡地に卒業生たる手によつて建てられ、去る四月六日に盛大な除幕式を行い、新しい百年への礎とした。

本校は明治二十五年四月、西学、下士居簡易小学校を合併し、寺堂常小學校として校舎を建設（この年より大部部落の校区は従来^の川井から衆生にうつる）。同三十四年四月、衆生尋常小学校と改称、西學永科との組合並高等科を併設、同四十年四月、第五學校を置き國圖、裁縫、理科を必須の教科とし四十四年手工科を加えた。

大正四年四月、東豐永付独立して高等科を併設し、衆生尋常高等小學校と改称、昭和五年四月慈川、川井、大瀧一三番地に校舎を新築移転、同六年四月、高等科第三学年制度を改め二年制とし、同十五年四月まで十六歳以上十六歳を越えた。翌十六年四月東豐永国民學校と改稱十五學級、同二十年四月東豐永小學校と改稱、高等科を廃止、（東豐永中學校となる）。同四十九年三月西川九八〇番地に鉄筋二階建新築校舎を建築移



杉の大杉、に
有料駐車場完成

当日、中央公民館で祝賀会
 開き、今後の御健康と御活
 躍を祈りました。なお高知
 賀会を開き、遠くは大阪方
 からもかけつけて旧交をあ
 たためた。

平平方畝で完成した。
杉の大杉は、最近のレジ
ヤープームに乗って観光客
が増え、年間十万人にも及
んでいる。地元では前々か
ら大杉保勝会を組織して
保存サービスとして来て
たが応じきれず、整備が必
要となった。そのため国道
三二号線に通ずる五〇〇畧
の観光道が開設され、併せ

これにより
大豊町の観光
資源がより活
用され、地域
の発展となる
ことが期待さ
れる。

↑完成した大
杉駐車場

会員と歌手を募集

音楽好きならどなたでも
大衆ミュージック・クエ



記念撮影

町連合会 婦人会 発足20周年記念大会

大豊町連合婦人会発足20周年記念大会は7月13日中央公民館に西岡県議、門田町長、秋山議長及び各議員らを招いて9時30分開会。婦人参政30周年、さらには国際婦人年という意義深い年に、婦人のおかれては立場を再認識し、資質の向上に努め昭和50年代の新しい町づくへのステップにしよう、と、大会宣言を採択して午後3時半散会した。

現代の価値を加えて次代へ

この日、町内から参加した婦人は百二十余名、歴代会長や模範婦人、優良団体代表者らが表彰者席につき、丸山副会長の総会会長で厳肅に開式。大利会長は緊張の面持で大要次のような挨拶を述べた。

これに呼応し、先輩の方

発足したのは、同年七月十二日と承っております。当時私はやっと大人の仲間入りをしたばかりで、お恥ずかしい次第ですが、当時の様子は良くは存じておりません。幸い橋本初代会長さんもお見えになっておられますので、当時の御苦勞話

や思い出等のちほどお聞かせ下さい。二十年の今日を迎えることができましたのは、歴代会長さんほもとより、役員及び会員の皆様方の確固たる信念と強い情熱と努力、行政機関の適切なご指導と助言の賜であることを信じ感謝の念で一杯であります。

こうして、成人式を迎えた連合婦人会を現在受け継いだ私達は、先輩の心を決して無にすることなく、その精神をしっかり受け継ぎ、更に私達の手で現代の価値を加えて次の世代に伝達しなくては思いをめぐらすとき、その責任の重さに身のひきしめる気が致し

価値感の多様化、激しい過疎の中で都市化現象などによって山紫水明、人情こまやかな筈だった我が大豊町もだんだん住みにくくなると共に婦人会活動も仲々容易ではなくなつて参りました。

だがこのように荒廃した社会の中でこそ、家族の健康管理、育児、教育、家庭

り、お互いに協力しながら私達の
のひとりどりが幸福を守る
のために一致団結して、よ
りよい社会を築くのだと、い
う希望を打ち立て、
大会を開きました。

前まで自立した人から家族に励み、子供の教育、病氣のお年寄りの介護を続けられてきた模範嫁といわれる方、又若い者をよく理解された上で協力、助言を惜しまず家庭の和に努力されている模範姑、多年会員相互が模範として実践活動を行い、地域の向上及び改善に効果を挙げた団体等の表彰

また当日の二名の方の体調発表は集まった婦人の共

辞があつて会員の体験発表。午後からは徳島県山城町の教育長兼公民館長園尾正夫先生の「人間性の喪失とその回復について」と題

式典における表彰

実践、活動に功績顕著 模範姑・嫁など表彰

宣

言

大豊町連合婦人会が 激動する社会情勢の ユニティの場を通し課題解決に取り組み、新人に参政権が附与されて三十周年、さらには「平等」「発展」「平和」をテーマとする国際婦人年という極めて意義深い年を迎えまた、家庭生活崩壊への傾向と老人問題、さらには青少年の非行化、社会言といたします。

私達婦人は、この意義ある年を契機としてここに相集い二十周年の記念大会を開き、次健康管理等々、私達は厳しい現実を再認識し、益々一致団結してコミ

大豊町連合婦人会
二十周年記念大会
七月十三日
大豊町連合婦人会
二十周年記念大会

つつましかに発表する近藤さん



これらの
婦人会活動

八川近藤育子 (33)

「貴女もあんまり白い方 ことを話したら上等よ」な 出稼が多く、養蚕とぜんま
じゃないけん、丈夫に塗つ だと励まされて、木会で発 びが盛んです。恵まれたこ
り大きなことは判らぬが 表すことになりました。 とに同年代の会員が多く、
んだけなことは判らぬが 私達の八川は戸数二十七 平均年令三十九才、職業も
当り前よ、心配せず身近な 戸、会員十六名、農閑期は 略同い。妻、嫁、母として

が、よりよい花に育てるためにお互いに心を寄せ合つて、いたりあい話して、ゆこうと努力しており、小さな集まりであれ、みなでする半日の草引きですと会合の時期が田前近して開かれるので、出席し

ではありませんが、お互い
ないものの一つとして、こ
れからも続けてゆきたいと
思っております。

連合員は考えています。 合理化に走り過ぎて、お
急激に変化してきた社会 互いの心のつながりが育か
情勢の中で、人間の心の喪 されないよう、今日の大会
失が叫ばれています。こん にも部落会長はじめ多くの
が、私連も時としてその 会員が私にも心を配ってく
渦の中に巻き込まれそうな れ、お盆や盂等もありま
ときもあります。略：合 が、大勢で出席致しまし
理化の波に人々の心が押し た。以下略。

色々の部員であつても矢
張り連合婦人会が主幹であ
つて、グループ活動が枝葉
であると思います。主幹は
枝葉のしげり具合を調整し
て、強力な歩みを続けて下
さるようお願いします。略
。



(前列向って左から) 初代橋本、2代豊永、
3代西村の各会長と受賞者の方々

感謝状の部

初代会長	橋本晴喜（杉）
二代 "	豊永美麿子
二代 "	（大久保）
本部青年団（子供会育成）	西村敏子（怒田）

婦人会活動で
私の体験したこと

川口 秋山 洋子 (52)

私は一婦人会員として色々の共助会に参加させていだきましたが、これが私の人生にどんなに心のささえになり、道しるべになつたとか、ずしと持ち続てきたこの感謝の気持ちに、言申し上げたくて、話下手の私ではありますが、勇氣を出して今日の式典にのぞみました。略々。色々と忘れられないことが多いのですが、西村前会長さんがおっしゃられた言葉に、「主婦は一家の太陽でなくはいけない」、常に家庭内を明るくあたたく、そして家族の健康を守らなければいけない」と。私は四十才の初期をこのようにして供達もそれぞれ成長し孫達も生まれ、嫁と姑とのトラブルもなく幸せに暮してゆけるのもひとえに婦人集団の中で勉強させていだき、心の準備ができていたお蔭と感謝しております略々。婦人活動は私達にとり、いや大豊町にとってやらなければならない大きな

婦人会活動の中で教え導か

